

令和7年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立ゆいの杜小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和7年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

令和7年4月17日(木)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 児童質問紙)

4 本校の参加状況

- ① 国語 128人
- ② 算数 128人
- ③ 理科 128人

5 留意事項

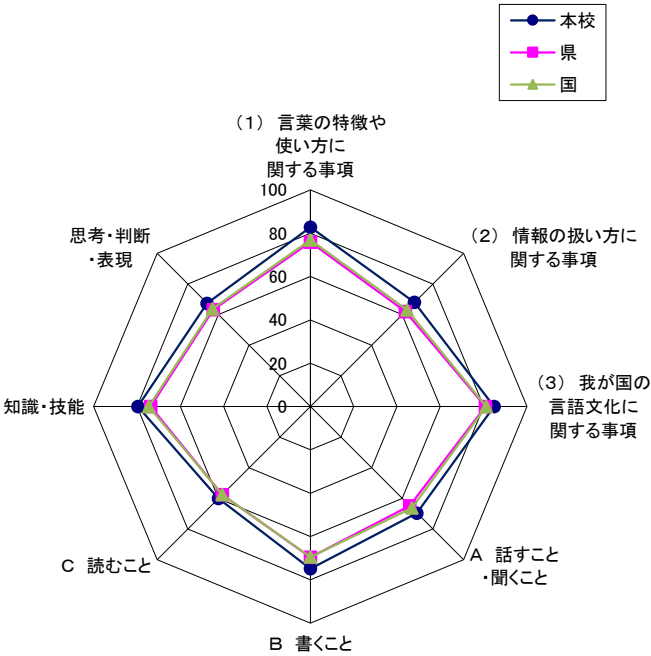
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立ゆいの杜小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	県	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使いに関する事項	82.8	75.9	76.9
	(2) 情報の扱いに関する事項	68.0	62.0	63.1
	(3) 我が国の言語文化に関する事項	84.8	80.8	81.2
	A 話すこと・聞くこと	69.6	64.9	66.3
	B 書くこと	74.9	69.6	69.5
	C 読むこと	60.0	57.5	57.5
観点	知識・技能	79.6	73.7	74.5
	思考・判断・表現	67.4	63.3	63.8
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

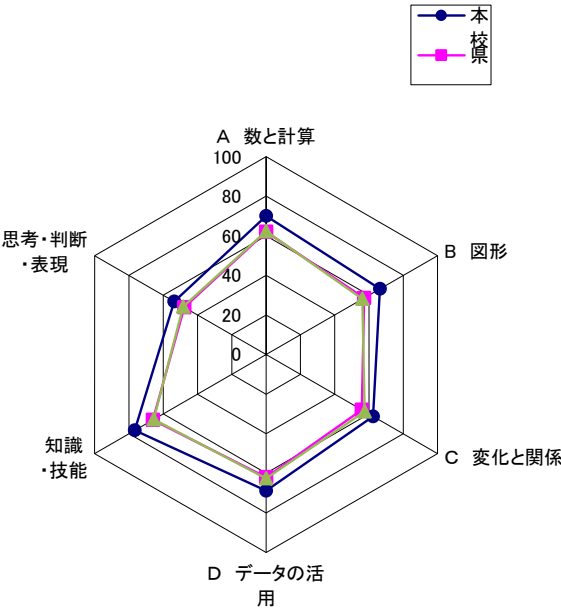
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言語の特徴や使いに関する事項	平均正答率は82.8%で、全国の平均を5.9ポイント上回っている。 ○漢字を文の中で正しく使う問題では、全国の平均を10.4ポイント上回っている。	・引き続き、文の中で漢字を正しく使えるように指導していく。
(2) 情報の扱いに関する事項	平均正答率は68.0%で、全国の平均を4.9ポイント上回っている。 ○情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解して使う問題では、全国の平均を4.9ポイント上回っている。	・正しい読み取りを行えるように、日頃から文章を最後まで読むように指導していく。
(3) 我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は84.8%で、全国の平均を3.6ポイント上回っている。 ○時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付く問題では、全国正答率を3.6ポイント上回っている。	・説明文や物語文を扱う際に、文章を要約する活動を取り入れ、概要を理解できる力を養っていく。
A 話すこと・聞くこと	平均正答率は69.6%で、全国の平均を3.3ポイント上回っている。 ○自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉える問題では、全国の平均を9.0ポイント上回っている。 ●話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめる問題では、全国の平均を2.5ポイント下回っている。	・相手と考えを共有する活動を多く設け、相手の考えを理解した上で、自分の考えと比較し、自分の意見をまとめることができるように指導していく。
B 書くこと	平均正答率は74.9%で、全国の平均を5.4ポイント上回っている。 ○書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考える問題では、全国の平均を6.5ポイント上回っている。 ●目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する問題では、全国の平均を7.5ポイント上回っているが、正答率は68.8%である。	・目的や意図に応じて簡単に書く活動や、条件に合った内容を書く活動を取り入れ、自分の考えを書く機会を増やしていく。
C 読むこと	平均正答率は60.0%で、全国の平均を2.5ポイント上回っている。 ○目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付ける問題では、全国の平均を9.3ポイント上回っている。 ●事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握する問題では、全国の平均を5.7ポイント下回っている。	・様々な文章に日々触れていくことで、必要な情報を文章中から見つけることができる力を養っていく。また、文章の構成を捉え、要旨を把握する活動を増やしていく。

宇都宮市立ゆいの杜小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	県	国
領域	A 数と計算	70.0	62.0	62.3
	B 図形	66.4	57.2	56.2
	C 測定	62.8	54.4	54.8
	C 変化と関係	62.4	55.9	57.5
	D データの活用	68.8	62.0	62.6
観点	知識・技能	76.6	66.0	65.5
	思考・判断・表現	53.6	47.7	48.3
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

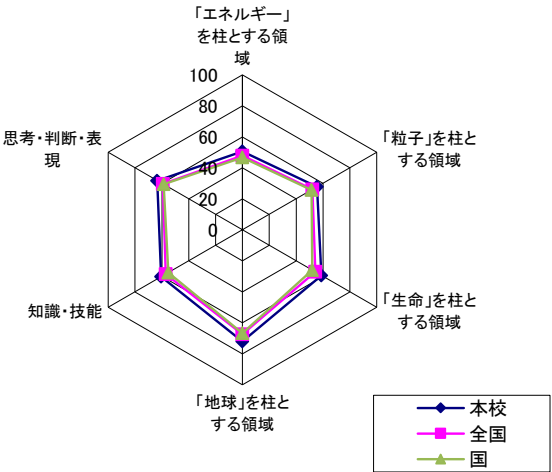
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と計算	平均正答率は70.0%で、全国の平均を7.7ポイント上回っている。 ○数直線上に示された数を分数で書く問題では、全国の平均を29.8ポイント上回っている。 ●異分母の分数の加法の計算をする問題では、全国の平均を2.9ポイント下回っている。	・日常生活の場面を扱う活動を増やし、数値の関係を言葉や式で表現できるようにする。 ・通分の練習問題を解く際に、最小公倍数を意識させ、分母を揃えることで分子の計算ができるように指導し、正確に問題を解くことができるようにする。
B 図形	平均正答率は66.4%で、全国の平均を10.2ポイント上回っている。 ○台形の意味や性質について理解しているかをみる問題では、全国の平均を23.4ポイント上回っている。 ●基本図形に分割することができる図形の面積の求め方を、式や言葉を用いて記述する問題では、全国の平均を3.0ポイント上回っているが、本校の正答率は40.0%である。	・図形の性質を見出す力をさらに育むため、授業の中で図形の観察や構成を捉える活動を、意図的に増やして、図形の見方を考えることができるようにする。 ・日頃の学習から、図や言葉、式を用いて、解き方を説明する機会を多く設定することで、答えを導くまでの過程で自力で思考する力を高めることができるようにする。
C 測定 変化と関係	「測定」の平均正答率は62.8%で、全国の平均を8.0ポイント上回っている。 「変化と関係」の平均正答率は62.4%で、全国の平均を4.9ポイント上回っている。 ○伴って変わる二つの数量の関係に着目し、必要な数量を見出す問題では、全国の正答率を、5.2ポイント上回っている。 ●基の数の何倍かを求める問題では、全国の平均を6.3ポイント上回っているが、本校の正答率は47.2%である。	・割合の問題を解く際に、文章の中から「もとにする量」、「比べられる量」「割合」の関係性を理解させるために、図を使って視覚的に分かりやすく指導する。
D データの活用	平均正答率は68.8%で、全国の平均を6.2ポイント上回っている。 ○簡単な二次元の表から条件に合った項目を選ぶ問題では、全国の平均を10.8ポイント上回っている。 ●目的に応じて適切なグラフを選択し、その理由を言葉や数を用いて記述する問題では、全国の平均を5.0ポイント上回っているが、本校の正答率は36.0%である。	・表や様々なグラフの特徴やよさに十分にふれさせることによって、生活や学習に活用しようとする態度を養っていく。 ・目的に応じて適切な表やグラフを選んで分析し、その結論について多面的に考察し、互いに伝え合う機会を設けることによって、筋道を立てて考え、説明する力を高めていく。

宇都宮市立ゆいの杜小学校 第6学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の全国、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	全国	国
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	50.6	47.9	46.7
	「粒子」を柱とする領域	55.5	52.2	51.4
	「生命」を柱とする領域	58.8	54.3	52.0
	「地球」を柱とする領域	72.0	67.4	66.7
観点	知識・技能	60.5	57.2	55.3
	思考・判断・表現	63.5	59.3	58.7



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	平均正答率50.6%で、全国の平均を3.9ポイント上回っている。 ○乾電池2個のつなぎ方で直列につなぎ、電磁石を強くできるものを選ぶ問題では、全国の平均を10.5ポイント上回っている。 ●アルミニウム、鉄、銅について、電気を通すか、磁石に引き付けられるか、それぞれの性質について当てはまるものを選ぶ問題では、全国の平均をやや上回っているものの、正答率は11.2%である。	・4年生の授業において、個人で操作する場面を増やし、電気を通すもの、磁石に引き付けられるものの性質について確実に理解させる。また、5年生の電磁石の授業の中で再度確認するなど、繰り返し復習し、理解が深まるよう支援する。
「粒子」を柱とする領域	平均正答率は55.5%で、全国の平均を4.1ポイント上回っている。 ○水の結露について、温度によって水の状態が変化するという知識と関連付け、適切に説明しているものを選ぶ問題では、全国の平均を9.7ポイント上回っている。 ●海面水位の上昇について、水の温度により体積の変化を根拠に予想しているものを選ぶ問題では、全国の平均を0.8ポイント下回っている。	・教科書にある発展的内容を意識的に取り上げることで、理科で学習した内容を実生活に関連付けて考えることができるようにする。
「生命」を柱とする領域	平均正答率は58.8%で、全国の平均を6.8ポイント上回っている。 ○レタスの種子の発芽の条件に関する問題では、全国の平均を11.7ポイント上回っている。	・自然に親しむ機会や、日常生活に関連させた説明を増やしていくことで、季節ごとの植物の変化に関する理解を深めていく。
「地球」を柱とする領域	平均正答率は72.0%で、全国の平均を5.3ポイント上回っている。 ○赤玉土の粒の大きさによる水の染み込む時間の違いを調べる実験の条件に関する問題では、全国の平均を5.3ポイント上回っている。 ●水が陸から海へ流れていくことについて水の行方と関連付けて考えさせるものを選ぶ問題では、全国の平均を0.1ポイント下回っている。	・身の回りに起こった様々な事象について、既習の内容と関連付けて考えさせるような言葉かけを意図的に行う。

宇都宮市立ゆいの杜小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」の質問に肯定的に回答した児童の割合は95.2%で、全国の平均を4.8ポイント上回っている。「算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」の質問に肯定的に回答した児童の割合は97.7%で、全国の平均を6.1ポイント上回っている。日頃から国語や算数の学習内容と自分の生活を結び付けて考え、国語や算数の学習内容が自分の生活の中で有意義であると認めている児童が多いことが分かる。これからも積極的に学習することができるように、具体的な事例を紹介しながら学習の支援をしていきたい。

○「将来の夢や目標をもっていますか」の質問に肯定的に回答した児童の割合は92.1%で、全国の平均を9ポイント上回っている。キャリア教育の成果の一つであると考えられる。引き続き、児童の意欲を大切にして、家庭の協力を得ながら児童が目標をもって努力を重ねて生活していけるよう、支援していきたい。

○「道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか」の質問に肯定的に回答した児童の割合は94.5%で、全国の平均を6.5ポイント上回っている。道徳の学習の中で、児童が学級やグループ活動を意欲的にを行い、話し合いをして学習の成果が表れたと考えられる。本校の学校課題であるコミュニケーション能力の育成の成果が表れているとも考えられる。話し合い活動を通して、児童がお互いを認め合い、大切にできるよう、今後も継続して支援していくようにしたい。

○「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」の質問に肯定的に回答した児童の割合は100%である。今後も、人権を大切にして、いじめは絶対に許されないものであることを指導していきたい。

●「これまでの生活の中で、自然の中で遊ぶことや自然観察をすることがありましたか」の質問に肯定的に回答した児童の割合は74.8%で、全国の平均ポイントを5.8ポイント下回っている。本校は、校庭の樹木が少なく、自然に触れ合う機会が少ない。現在、各学年で公園等に行く校外学習を行っているところである。今後、自然に触れ合う学習活動を積極的に取り入れ、児童が自然観察ができるようにしていきたい。

宇都宮市立ゆいの杜小学校（第6学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
有効な話し合いを行い、考えを深めたり広げたりする工夫	・学校全体で、話し合いの観点と話型の作成を行い、発達段階に応じて指導している。 ・考えの深まりや変化が見られるような振り返りを学校全体で作成し、実践している。	・「学級や友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか」の設問で、肯定的回答をした児童が、全国の平均を上回っている。 ・「5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか」の設問で、肯定的回答をした児童が、全国の平均を上回っている。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか」の質問に、肯定的に回答した割合は71.7%であった。全国の平均を6.4ポイント下回っている。	・主体性をもって取り組めるような課題の工夫	・引き続き、課題に向かって楽しく主体的に取り組む工夫として、課題内容を実生活に関連付けたものにしたたり、考える必要感のある課題設定をしつめていきたい。